角野栄子　「国際アンデルセン賞」作家賞受賞

童話・絵本作家の角野栄子が、2018年3月26日に国際アンデルセン賞作家賞を受賞。
日本人の受賞は、詩人まどみちお(1994年)、ファンタジー作家上橋菜穂子(2014年)に続く三人目。
国際アンデルセン賞は、1953年に国際児童図書評議会（通称呼称IBBY）によって創設された子どもの本の国際的な賞で、選考水準が高いため、「小さなノーベル賞」とも言われている。作家賞の他に画家賞も設けられている。
過去に、『ムーミン』シリーズの作者トーベ・ヤンソンや、絵本『すてきな三にんぐみ』の作者トミー・ウンゲラーらも受賞している。

☆角野栄子の経歴
角野栄子は1935年1月1日、東京都深川の扇橋で生まれた。生後間もなく3つ年上の姉と共に都内の小岩に移る。後に４人の弟と妹ができ、6人兄妹となる。太平洋戦争中は山形県や千葉県への疎開も経験。1953年、早稲田大学教育学部英語英文学科に入学。1957年、新宿の紀伊國屋書店出版部に入社。その後1959年から2年間ブラジルへ渡航。さらに、リスボン、欧州、アメリカ、カナダにも滞在。1970年、『ルイジンニョ少年、ブラジルをたずねて』(ポプラ社)でデビュー。産経児童出版文化賞や路傍の石文学賞など、他の作品においても様々な文学賞を受賞している。

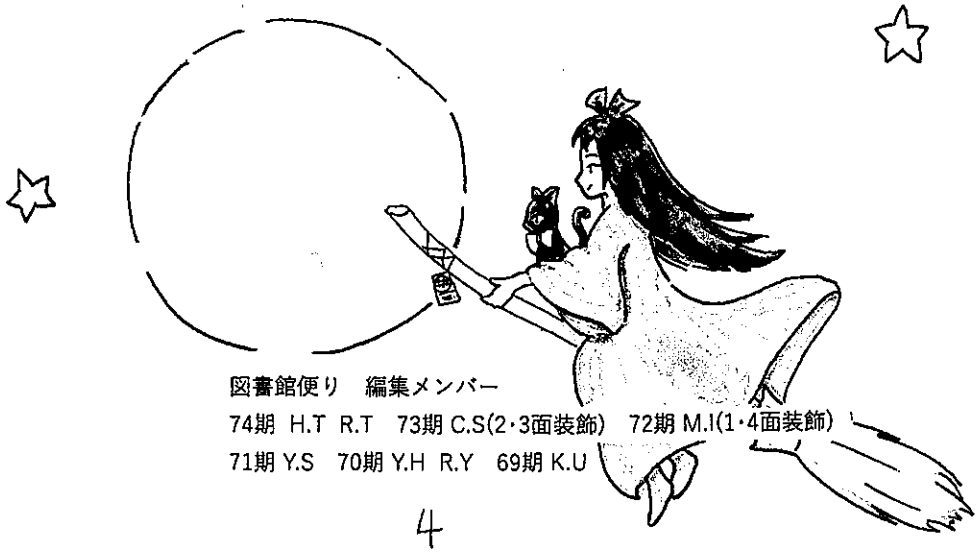
☆代表作『魔女の宅急便』
1981年4月より、福音館書店の雑誌「母の友」にて連載がスタート。1985年に同社より単行本が刊行された。これを原作として、1989年にスタジオジブリがアニメ映画化。

[あらすじ]
魔女として生きることを決めていたキキは、ある満月の夜、相棒の黒猫ジジと共に、一人立ちするための旅に出る。たどり着いたのは大都会コリコという町だった。町で偶然出会ったグーチョキパン屋のおソノさんの厚意で、パン屋の２階で下宿を始めるキキ。さらに、魔法を生かして「魔女の宅急便」と称した宅配サービスを開始するが…。
小さな魔女キキが、人々との出会いを通じて成長していく物語。

☆主な作品(出版年順)
『あしあとだあれ』　1970年　ポプラ社
『小さなおばけ』シリーズ　1979年～　ポプラ社
『大どろぼうブラブラ氏』　1981年　講談社
『ルイジンニョ少年、ブラジルをたずねて』　1970年　ポプラ社
『ズボン船長さんの話』　1981年　福音館書店
『魔女の宅急便』シリーズ　1985年～　福音館書店

参照　『現代児童文学作家対談3　角野栄子、立原えりか、中川李枝子』　偕成社 1988年
『魔女の宅急便』第1巻　福音館書店 1985年
『子どもの本がつなぐ希望の世界』　日本国際児童図書評議会40周年記念出版委員会 編　彩流社　2016年
JBBY 社会法人日本国債児童図書協議会ホームページhttp://jbby.org/

71期　Y.S



図書館便り　編集メンバー
74期 H.T　R.T　73期 C.S(2・3面装飾)　72期 M.I(1・4面装飾)
71期 Y.S　70期 Y.H　R.Y　69期 K.U

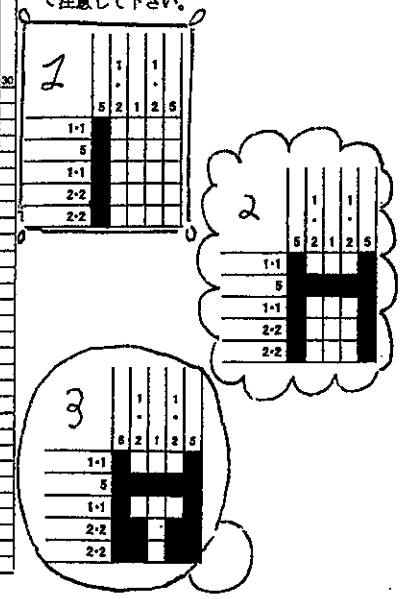
図書館だより　139号

新学期が始まって早くも２ヶ月が経ちました。皆さんはもう新しいクラスに慣れましたか？
今年度最初の図書館便りでは、新任の先生を 12 人紹介いたします。
さて、今年のノーベル文学賞は発表されないことが決定しましたが、「小さなノーベル賞」と言われている国際アンデルセン賞は３月末に発表されました。受賞者は、『魔女の宅急便』で有名なあの方です。実はその方、鎌倉市に住んでらっしゃるんです！ご存知でしたか？鎌倉市在住だと知ると、なんだか身近に感じられますね。４面で紹介していますので、是非読んでみてください。
なお、今号で掲載したすべての本は、図書館二階に夏休みいっぱい展示していますので、是非足をお運びください。

70期　Y.H

いらすとろじっく

やり方
★数字の分だけ塗ります。
★大きな数から塗るとやり易いです。
★数字と数字の間は少なくとも１マス空きます。
※塗ってあるマスの分も数字に含まれているので注意して下さい。



イラストロジック制作：　70期　Y.H